

【レポート】

越前市しらやま振興会では、2013年から「越前しらやま SATOYAMA スタジオ」（以下、しらやまスタジオ）を開設し、Youtubeや地元FM局を通じて越前市白山地区の魅力を発信している。開設から10年を超え、地区の変化としらやまスタジオの変化を通じて、公務員として地元で再就職した私自身が感じたことなどを報告します。

続！ 伝えるのは地元愛!/? しらやまスタジオ

— 10年以上続けて感じたこと —

福井県本部／越前市職員組合・丹南市民自治研究センター 前田 利隆

1. はじめに

(1) 越前市の概況

越前市は、福井県のほぼ中央に位置し、2005年10月に旧武生市と旧今立町が合併して誕生しました。

面積は230.75km²で、福井県域の5.5%を占めており、人口は80,292人です（2024年6月1日現在）。

本市の歴史は、継体大王伝承に見られるように大変古く、越の国と呼ばれた頃から拓けた地域で、旧武生市には「大化の改新」の頃に国府が置かれ、政治・経済・文化の中心地として栄えました。「源氏物語」の作者・紫式部が、越前国司として赴任した父・藤原為時とともに1年余り暮らした地でもあります。特に2024年は大河ドラマ「光る君へ」が放送されたこともあり、新幹線開業とあわせて多くの方にお越しいただいています。

また、モノづくりが盛んで、越前和紙や越前打刃物、越前筆筒などの伝統産業から電子部品等のハイテク産業まで幅広い産業が集積し、福井県内有数の工業製造品等出荷額を誇る産業都市でもあります。

(2) 越前市白山地区

越前市白山地区は越前市の西部に位置し、標高250m～350mの里山に囲まれた標高150m前後の小盆地です。この里山に注ぐ北陸特有の降水量により、豊富な水に恵まれています。自然の湧水と小さな浅いため池が点在し、全国的にも希少な生物多様性の自然環境に富んでいます。そのため日本の里100選に選ばれ、2004年には環境省から「里地里山保全再生モデル」の実施地域に指定されました。また、2013年には、地区内でコウノトリ2羽の飼育が開始され、2015年には卵から孵ったコウノトリ2羽の放鳥が行われました。その後、2ペアの野生のコウノトリが毎年繁殖のため訪れています。

しかし、近年では少子高齢化と人口減少が進み、高齢化率も市内でトップとなるなど、中山間地が抱える問題も生じています。そのような中、しらやま振興会では、地域の特性を生かし、「しらやま大使」と「しらやまファンクラブ」事業、エコグリーンツーリズム水の里しらやまや各種市民活動団体との連携を行うことで、持続可能な地域づくりに取り組んでいます。



越前市白山地区の位置



白山地区の風景

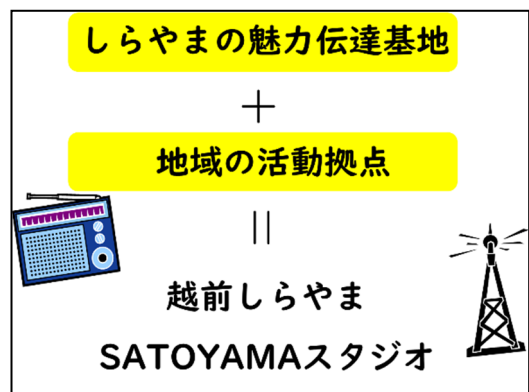


白山地区の特産品
しらやま西瓜

2. 地域や人の魅力を発信!! しらやまスタジオ

(1) しらやまスタジオとは

しらやま振興会では、都市部でのまちなか交流事業や、「しらやま大使」と「しらやまファンクラブ」事業、市民活動団体との連携を行うことで、地域の活性化に取り組んでいました。しかし、その取り組みは30～60代の人たちが中心となり活動を行っているものであり、20代の若者が参加し、活動を行っている事業がありませんでした。そこで、20代の若者の地域振興活動の受け皿とし、若者に地元愛や生活を行う場所として考えてもらうため、また、しらやまの魅力や振興会事業の紹介を幅広く行うためにYoutube、地元FM局である「たんなん夢レディオFM79.1MHz」を媒体に2013年8月3日に「しらやまスタジオ」を開設しました。



しらやまスタジオとは?

(2) たんなん夢レディオ

特定非営利活動法人たんなん夢レディオは、福井県鯖江市およびその隣接地域を対象とする、NPOの運営によるコミュニティ放送局です。福井県では2番目に開局し、NPOによる直接経営の放送局としても北陸初のラジオ放送局です。誰のものでもなく、誰のものでもある電波を通して“市民自らが発信する力をつけよう”を理念として放送を行っています。愛称は「たんなんFM」です。

3. しらやまスタジオの取り組み

(1) レギュラー放送

レギュラー放送については、以下のとおりです。

放送日及び時間：毎月第4日曜日 午後1時から午後1時59分まで

放送媒体：たんなんFM79.1MHz、Youtube（バックナンバー含む）

放送場所：ふるさと茶屋「しらやまさんち」、白山地区内

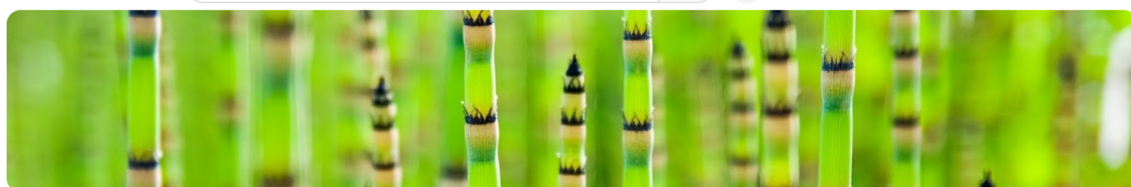
レギュラー放送は、毎月1回ふるさと茶屋「しらやまさんち」で収録をし、白山地区のイベント紹介や自然、有名人紹介、特産品の紹介など、白山にゆかりのある内容を約1時間放送しています。放送日は2016年3月までは月2回（第2、第4日曜日）行っていましたが、2016年4月からは現在の月1回（第4日曜日）の放送へ切替え、また、収録を行った上で放送をするなど無理をしない、負担にならない方法へ変更しながら活動を続けています。

放送内容については、放送日前に打合せを行い、どのような内容にするのか、どのようなイベントが開催されているのか、いろいろな情報を集めた上で、決定しています。最近では、対面での打合せだけでなく、LINEを利用し、放送内容等の確認を行っており、コロナ禍を経て、集まらずとも打合せを行えるように変更してきました。また、地区イベントがあれば、ビデオカメラやデジタルカメラを持っていき、イベントに参加する中で、主催者や参加者の生の声を取材し、時には、スタジオへ出演していただくこともあります。

また、出演者には楽しく番組に出て欲しいとのことから、放送前に主な質問事項や放送の流れを打合せし、それ以外は自由に発言してもらうようにするなど、手軽に出演できるラジオ番組をめざし、制作しています。その考えは2024年現在も変わらず、過去に福井新聞社の記者から言われた「いい意味で練習の様な本番」との言葉が象徴するように、堅苦しくない、ゆるいラジオ放送をめざしています。

（2） Youtubeを利用したアーカイブ放送

しらやまスタジオでは、Youtubeチャンネルを開設し、過去の放送回を見返すことができ、取材を行った場合は取材ごとに編集を行い、動画を配信しています。登録者数も2024年7月現在で1,160人、総動画再生回数770,977回と11年が経ちましたが、ゆっくりゆっくりと登録者数や再生数を増やしています。レギュラー放送の再生回数は50～100回程度ですが、イノシシを解体する取材動画が約44万回、限界集落で1世帯しか住んでいなかった越前市菅町（すげちょう）の夫妻の話を取材した動画が24万回と再生回数を大きく伸ばした取材動画もあります。チャンネル登録者数は白山地区のファンの数だと思います。また、この時代の白山地区の姿を未来に残していくことが、このしらやまスタジオの使命だと感じています。



越前しらやま Satoyamaすたじお

@satoyama3850 · チャンネル登録者数 1160人 · 326本の動画

福井県越前市のしらやま地区の様々な情報を発信しております。...さらに表示

echizen-shirayama.com

チャンネル登録

ホーム 動画 再生リスト

新しい順 人気動画 古い順



【閲覧注意です】イノシシ狩猟2（解体です。内臓等が映っています）
44万回視聴・9年前



『過疎に生きる一生：柳下さんご夫妻を訪ねて』
24万回視聴・10年前



#9 2013年12月8日 しらやまスタジオより～イノシシ狩り～
7763回視聴・10年前



180918【取材】さぎ草王国のさぎ草研究所にご訪問させていただきました！
2984回視聴・5年前

Youtubeのチャンネルトップ画面 チャンネル登録お待ちしております

(3) 広報媒体としての役割

放送を開始し、Youtubeで過去の放送を行う中で、思わぬ反響もありました。

① 広島からのメッセージ

「しらやま音頭の音源をいただけませんか」。ある日、広島からのメッセージがしらやまスタジオに寄せられました。その内容は、毎年恒例行事の白山地区夏祭りで地区民が踊っている、「しらやま音頭」というものがあり、広島の介護施設で働くその方は、施設に来ている方の運動不足解消のために、「しらやま音頭」を取り入れたいとのことで、その音源をいただけませんかとのことでした。このメッセージのきっかけとなったのは、2019年8月に夏祭りの様子を取材した際に「しらやま音頭」を動画としてアップしたことなのですが、白山地区と縁もゆかりもない広島の方からの問合せは少なからず交流の場を広げているようです。



190803 しらやま音頭（しらやま夏まつり2019より）

② 愛知県からの来訪者

白山地区では、武生市合併50周年を記念した「ふるさと白山」を作成しています。ふるさと白山は白山地区に伝わる伝承、伝統文化や伝統食などを後世に残していくために作成されたもので、しらやまスタジオではシリーズとしてこの本の内容紹介を行いました。

紹介し始めてからしばらくたったあと、公民館に愛知県から福井県に観光に来た方がこのふるさと白山が欲しいと訪ねてきました。話を伺うと、しらやまスタジオの動画を見てきたとのことで、本人にお会いすることはありませんでしたが、白山地区の魅力伝達基地としての役割を担っているのだと感じることのできたできごとでした。



4. 10年以上続けて感じた変化

10年以上続けてきたしらやまスタジオですが、当初から変わってきているなど感じていることがあります。

1つ目は、地区民のラジオ出演へのハードルが下がったことです。しらやまスタジオ開設当時は生放送であったこともあり、出演をお願いしても承諾してもらうまでに苦労しました。しかし、生放送から収録放送へ切り替えたこともあり、出演をお願いする際の「収録なので編集で何とかできます！」のひとことも大きいのかなと感じています。

2つ目は、しらやまスタジオに対する地区民の考え方の変化です。しらやまスタジオですが、当初は市のたねまる事業を利用した特別事業としてスタートしました。期間は1年だったため、2年目からはしらやま振興会の予算だけで運営をしていく必要がありました。当時Youtubeが盛り上がり始めたころで、白山地区内では認知度も低かったことから、ラジオ放送やYoutubeでの配信に対しての理解が中々無く、総会でも必要性について、議論もなされました。しかし、11年も続けているとそのような声も少なくなり、「しらやまスタジオを無くすくらいであれば、広報誌を無くせばいいのではないか」との声が届くようになりました。

5. おわりに～公務員が地域活動に参加すること～

しらやまスタジオが始まったのは、私がUターンで福井県に戻り、地区の活動に参加し始めてすぐの2013年8月の事でした。「ちょっと振興会でラジオ放送をするで、少し（←ここが重要です。）手伝ってほしいんやけど。」と声をかけられ、早11年。全くもって少しではないなと感じつつも、今となつては、地元市役所に再就職し、地域の活動にも参加してくれるだろうと声をかけられたのかなと思わないところはありますが、得られたものも多くあったような気がします。また、11年も続けていると、「ラジオをしている人」との認知が進み、仕事で白山地区に行った場合でも「ラジオ出てるね！」とのことで、話がスムーズに進むこともあります。さらに、公務員である私自身が地域活動に参加していることから、その地域で抱える課題を肌で感じるすることができますし、人脈も増えることから、地区に関する業務で困った場合に相談する相手ができる点については大きくプラスになっています。

私は組合活動や自治体職員として良い活動や仕事をするために味方につけるべきは市民だと考えています。その市民と身近に交流できる場は自分が住んでいる地元です。中山間地である白山地区は、人口流出が起きることは仕方がないことと認識しつつも、少しでも抗えるよう、2024年もラジオで好きなことをしゃべり、全国や世界に「しらやま」をアピールしていきたいと考えています。

最後に福井弁でお伝えしたいことがあります。「みんな、地域に出てみねま（出てみましょう）！」